北海道学校体育研究連盟　定期総会　資料

平成31年度　釧路支部　活動報告

平成31年4月20日（土）

1．研究内容について

○釧路支部　研究主題

『自ら運動と向き合い、夢中になれる子供の育成』
～つながる体育学習～

○研究仮説

９年間の技能のつながりを明確にしたカリキュラムや子供の実態に応じた単元計画の中で、必要感の伴った課題を解決する場面を設定し、交流場面に工夫を取り入れることで、子供たちの運動への志向性が高まり、自信を持って意欲的に学習に取り組むだろう。

○研究の視点

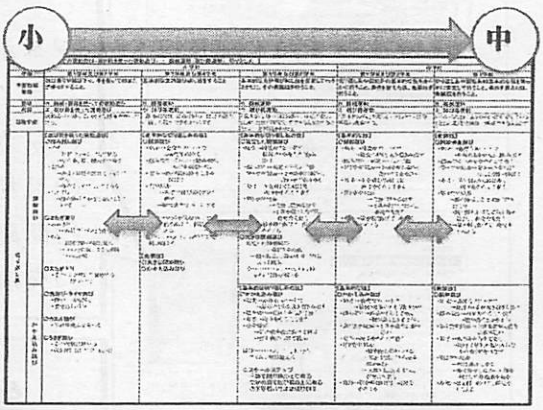
視点１　知識・技能のつながり～９年間のつながりに基づいた指導と評価

(1) 子供の実態に応じた単元計画の立案

・９年間のカリキュラムの活用

・子供から見た特性を生かした単元計画

・技能向上、体力向上につながる準備運動



(2) 目指す子供の姿の明確化

・どのような子供たちの姿で単元を終えたいかを明確にする

・個人の目指す姿、集団（学級・学年）としての目指す姿

(3) 評価内容の明確化

・観察の視点・意識するポイントの明確化

視点２　思考・判断・表現/主体的な学びへのつながり～必要感の伴う問題場面の設定

(1) 問題場面との出合い

・問題を実感できる場面を作りだす教師の仕掛け～学び、思考のきっかけ作り

(2) 課題の設定と解決方法の選択

・問題場面から、自分たちの課題を設定する（選ぶ）

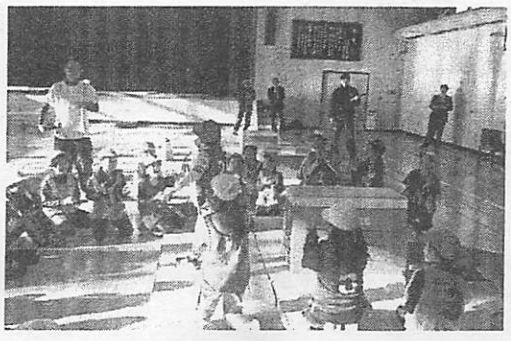
・課題を解決するための練習方法や場を考える（選ぶ）

視点３　学びに向かう力、人間性の涵養/対話的な学びとのつながり～交流場面の工夫

(1) 意図のあるグルーピングと役割分担

・リーダー、技能差、コミュニケーション力等の配慮

・役割分担とチームミーティング



(2) 交流を活性化させるための工夫

・統一した視点～見える化、キーワード化

・バディシステム～アドバイスタイムの設定

(3) チームワークの意識の徹底

・肯定的な雰囲気、支持的風土を醸成する

２．釧路支部の取り組み

（１）平成３０年度活動報告

日程		内容	会場	備考
5	29	研究部会①	美原中	今年度の見通し・実践報告レポートの確認
6	2	釧路支部 定期総会	アクアベール	
【定例】研究部会②～⑪ 6/14,7/5,7/26,8/16,9/13,10/11,11/1,11/15,12/6,1/10			美原中 富原中	授業実践計画・研究の視点整理等・ 公開研反省・指導案検討・研究骨子
9	3	授業公開～標茶町教育研究大会（小島収士教諭）	標茶町虹別小	単元：走り高跳び（小５/６）
	11	授業公開～釧路町学校教育研究大会（山本健太教諭）	遠矢小	単元：バスケットボール（小６）
	19	自主公開　（所 桂太郎教諭）	美原中	単元：サッカー（中２）
	19	自主公開　（小林辰司教諭）	鶴居村幌呂小	単元：ボール運動（小５/６）
	27	自主公開　（尾崎　唯教諭）	浜中町散布中	単元：マット運動（中１/２）
10	2	授業公開～釧路管内学校教育研究大会（中村悠希教諭）	弟子屈中	単元：跳び箱運動（中３）
	24	授業公開～釧路市学校教育研究大会①（佐藤雄飛教諭）	鳥取西中	単元：バスケットボール（中２）
	31	授業公開～附属釧路小学校研究大会（中村謙太教諭）	附属小	単元：マット遊び（小１）
	31	授業公開～附属釧路中学校研究大会（山本雄太教諭）	附属中	単元：バレーボール（中２）
11	1	自主公開　（築田竜弥教諭）	白糠町庶路学園	単元：マット運動（小６）
	14	授業公開～釧路市学校教育研究大会②（小林啓聡教諭）	桜が丘中	単元：跳び箱運動（小４）
	29	自主公開　（糠谷史子教諭）	光陽小	単元：ソフトバレーボール（小５）
12	13	自主公開　（久保達也教諭）	白糠小	単元：マット運動（小６）
2	14	自主公開　（八城雅彦教諭）	富原中	単元：バレーボール（中２）
	26	自主公開　（山本健太教諭）	遠矢小	単元：ポートボール（小５）
3	29	研究部会⑫	美原中	総括・釧路大会に向けて・実践レポート校正

※研究部会は月１回以上のペースで実施。最長７５km（約１時間半）の距離を移動して参加する部員もいた。

※昨年度は、公開研究会のみならず「自主公開」という形で、多くの研究部員が授業を公開した。

（２）授業評価アンケートの実施　（成果＝○、課題＝●）

①鳥取西中　佐藤雄飛教諭　中２「バスケットボール」
（男 17 名/女 17 名 混合チームでの授業）

視点１に関わって

○子供の実態に応じた単元計画

～技能差の大きい集団という実態と「ボールにたくさん触りたい」「自分でシュートを打ちたい」という子供から見た特性に応じた計画。オーバーナンバーでのドリルゲーム・タスクゲーム、また守備者の妨害を受けないシュートゾーンを設けたゲーム等、ゴール型ゲームの特性を存分に味わう工夫が随所にみられ、夢中になる姿が見られた。

●スモールステップ、ステップアップの場・技能向上

～パス、シュート、ドリブル等個人の技能を高め場や時間の設定に課題が残った。ドリル（タスク）ゲームの時間配分とともに、ウォーミングアップの工夫、ゲームやオフィシャルのないチームの活動の工夫が今後必要。

視点２に関わって

○問題場面との出合い

～前回までの映像を活用し、攻撃の問題場面（オフの動き）への意識づけがなされた。また、攻撃だけではなく守備での問題場面を提示したことで、守備が活性化し、よりオフの動きの必要感が生まれた。

●課題の設定と解決方法の選択

～問題場面の提示を受け、自チーム（自分）に置き換え、課題を設定→解決するための場や時間が必要であった。課題意識がぼやけてしまった。

②桜が丘小　小林啓聡教諭　小４「器械運動（跳び箱）」
（計 45 名の学年体育）

視点１に関わって

○スモールステップ、ステップアップの場・技能向上

～「全員で台上前転ができるようになる」ことを目標に単元が構成された。台上前転につながる活動の場が多く準備され、伸び伸びと課題に挑戦する姿が見られた。また、ウォーミングアップも本時につながる動きで工夫がなされていた。

視点２に関わって

●個人の課題解決とチーム活動のバランス

～個々の課題を解決することが目的であるが、活動が全てチームでの活動であった。アドバイスや補助等、支え合いの意味では効果的であるが１単位時間の中に個人で場を選ぶ時間を設けることによってさらに深まるのではないか。

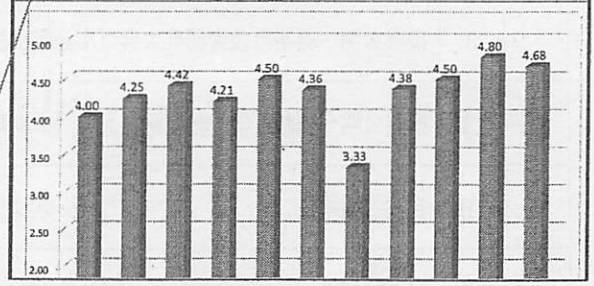
視点３に関わって

○全体への共有・チームワークの徹底

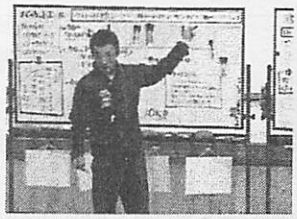
～ここまで完成していなかった子供を取り上げて、見本として実演させていた。チームの仲間だけに限らず、学級（学年）から声援が送られ、見本の子供は台上前転を成功させた。終始、肯定的な雰囲気で非常に良い授業であった。

≪授業観察者チェックアンケート結果≫

1	4.00	準備運動は技能向上や体力向上につながるものであった。	視点1
2	4.25	スモールステップ・ステップアップの場やメニューが用意されていた。	
3	4.42	学級（学年）の実態に応じた授業計画であった。	
4	4.21	子供が何を学習し、何を身に付けようとしているのかが、よくわかる授業であった。	
5	4.50	学びのきっかけとなるような問題場面との出合いや課題の提示があった。	視点2
6	4.36	学習課題は子供の実態に適したものであった。	
7	3.33	学習課題を解決するために練習方法を選んだり、場を選んだりする場面があった。	
8	4.38	ペアやグループ、個人の考えを発表したり、交流したりする場面があった。	視点3
9	4.50	技能ポイントの掲示やキーワード化など子供がわかりやすくなるような工夫がみられた。	
10	4.80	授業全体を通して肯定的な雰囲気であった。	
11	4.68	子供は、夢中になり意欲的に学習に取り組んでいた。	

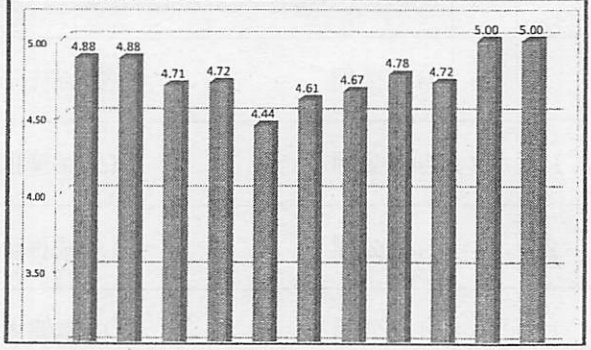


佐藤 雄飛教諭　授業評価アンケート（24 名回答）



≪授業観察者チェックアンケート結果≫

1	4.88	準備運動は技能向上や体力向上につながるものであった。	視点1
2	4.88	スモールステップ・ステップアップの場やメニューが用意されていた。	
3	4.71	学級（学年）の実態に応じた授業計画であった。	
4	4.72	子供が何を学習し、何を身に付けようとしているのかが、よくわかる授業であった。	
5	4.44	学びのきっかけとなるような問題場面との出合いや課題の提示があった。	視点2
6	4.61	学習課題は子供の実態に適したものであった。	
7	4.67	学習課題を解決するために練習方法を選んだり、場を選んだりする場面があった。	
8	4.78	ペアやグループ、個人の考えを発表したり、交流したりする場面があった。	視点3
9	4.72	技能ポイントの掲示やキーワード化など子供がわかりやすくなるような工夫がみられた。	
10	5.00	授業全体を通して肯定的な雰囲気であった。	
11	5.00	子供は、夢中になり意欲的に学習に取り組んでいた。	



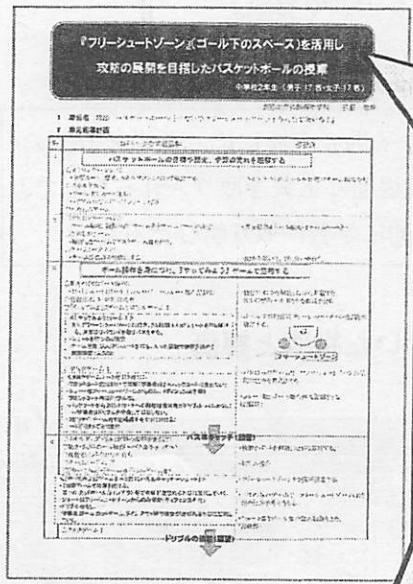
小林 啓聡教諭　授業評価アンケート（18 名回答）

（３）授業実践報告レポートの作成

・事後研や授業評価アンケート、生徒のアンケート等を基に実践報告レポートをまとめる。

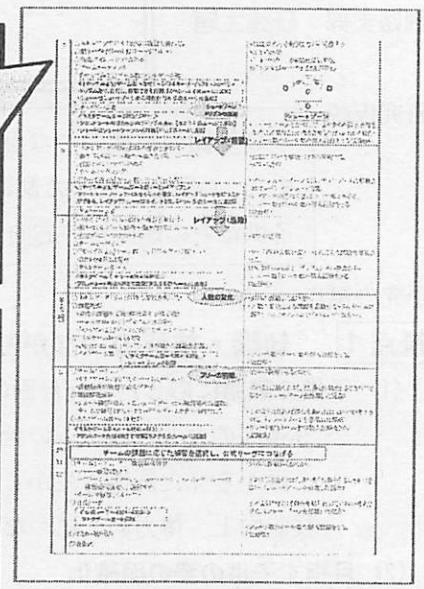
・レポートの内容は、授業実践モデルとして「いつでも、誰でも」活用できるよう単元計画、本時案を入れたものにした。

→30 年度は、公開研・自主公開あわせて９本のレポートが提出された。



テーマ/単元計画

→教師の意図した授業の狙い（テーマ）と単元の進め方



研究の視点

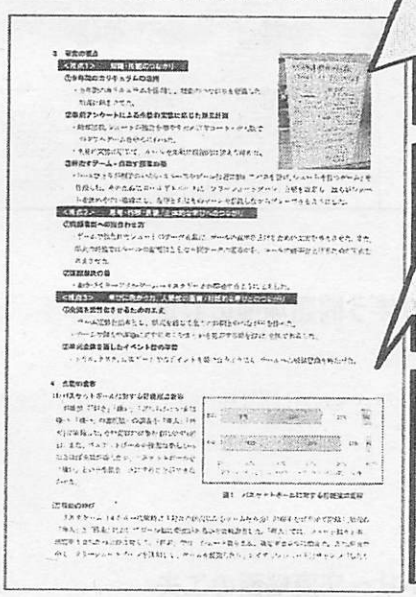
→単元構築の上で、ポイントとなる視点

○９カリ活用

○目指す姿

○問題場面への出合い

○交流場面の工夫　等



生徒の変容

→好嫌度の変容や技能面での伸び　等

成果と課題/本時案

→公開本時案

→単元の成果と課題

３．平成３１年（令和元年）度の展望　～第 56 回大会　北海道学校体育研究大会　釧路大会～

＜研究部＞

○月３回以上の研究部会実施

→授業構想、プレ授業の設定

→９年間のカリキュラムの整備

→指導案検討

→授業実践レポートの作成　　等

○釧路大会の成果と課題→次年度へのつながり